

V 中学部の取り組み

1	中学部研究方針	60
2	中学部研究経過	60
3	学部研究の実際	
(1)	通知表の分析・記述方法の統一 【観点別評価に関する取り組み】	61
(2)	宮特授業改善のポイントを意識した授業実践 【学習改善・授業改善】	62
1組	生活単元学習「沖縄そばづくり」	64
2組	生活単元学習「自分ができる台風対策を考えよう」	74
(3)	生単（理科・社会）の取り組み・行事と授業との関連を考える取り組み・ 教科横断的な取り組み・年間指導計画の見直し 【教育課程改善】	87
4	2学期までの研修を振り返って	87
5	学部研究の成果と今後の課題	89

V 中学部の取り組み

1 中学部研究方針

(1) 研究の流れ

昨年度からの研究に引き続き、「観点別評価」に取り組みつつ、授業実践を通して主体的・対話的で深い学びを意識した「学習改善」・「授業改善」を行う。加えて、3学期以降に取り組み予定である「教育課程改善」への足がかりになる取り組みも行う。

(2) 研究方法

- ① 【観点別評価】 通知表の分析・通知表の記述方法の統一
- ② 【学習改善・授業改善】 宮特授業改善のポイントを意識した授業実践
- ③ 【教育課程改善】 生単（理科・社会）の取り組み・行事と授業との関連を考える取り組み・教科横断的な取り組み・年間指導計画の見直し

(3) 留意点

- ① 授業実践及び評価実践の研究は学習グループ内で話し合って作成することとする。
- ② 学習指導案様式及び個別の評価記録様式は必要があれば、各グループで検討の上、変更することができることとする。
- ③ 学習指導案、個別の評価記録は学習グループ内で話し合って作成することとする。
- ④ 観点別学習状況の評価について疑問や意見等があれば、その都度学部研修で確認を行う。

2 中学部研究経過

学期	中学部研修内容
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ○中学部研修方針の検討、決定 ○前年度の通知表を用いて、3観点での記述方法を確認（新職員） ○宮特授業改善のポイントを意識した実践および報告 ○生単（理科・社会）の計画作成および実践① ○卒業式と授業との関連を考える取り組みの実践① ○1学期の通知表の評価観点の仕分け・分析
二学期	<ul style="list-style-type: none"> ○通知表の記述方法についての確認 ○生単（理科・社会）の実践②③④ ○各学習グループ実践・研究授業及び授業研究会① ○各学習グループの成果と課題まとめ・実践報告会① ○卒業式と授業との関連を考える取り組みの実践② ○教科横断的な取り組み① ○各学習グループ実践・研究授業② ○各学習グループの成果と課題まとめ・実践報告会②
三学期	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画の見直し・改善案作成 ○教科横断的な取り組み② ○生単（理科・社会）の実践⑤ ○卒業式と授業との関連を考える取り組みの実践③ ○次年度研究計画案の作成

3 学部研究の実際

(1) 通知表の分析・記述方法の統一 【観点別評価に関する取り組み】

① 実施方法

中学部は約半数が今年度赴任してきた職員であり、学部としての足並みを揃えるため、新職員に対し、昨年度の通知表を用いて、3観点での記述方法についての確認を行った。その後、中学部全体の1学期の通知表の仕分け・分析を行った。仕分けについては、昨年度はすべての記述内容から3観点で評価されている記述をカウントしていき、その割合をグラフでまとめていた。それに対し今年度は、3観点で記述することは前提とし、一人一人の評価記述の3観点のバランスを考察することを目的として、各生徒の教科毎の評価記述において3観点が含まれているか、含まれていないかをチェックし、分析を行った。

② 分析結果

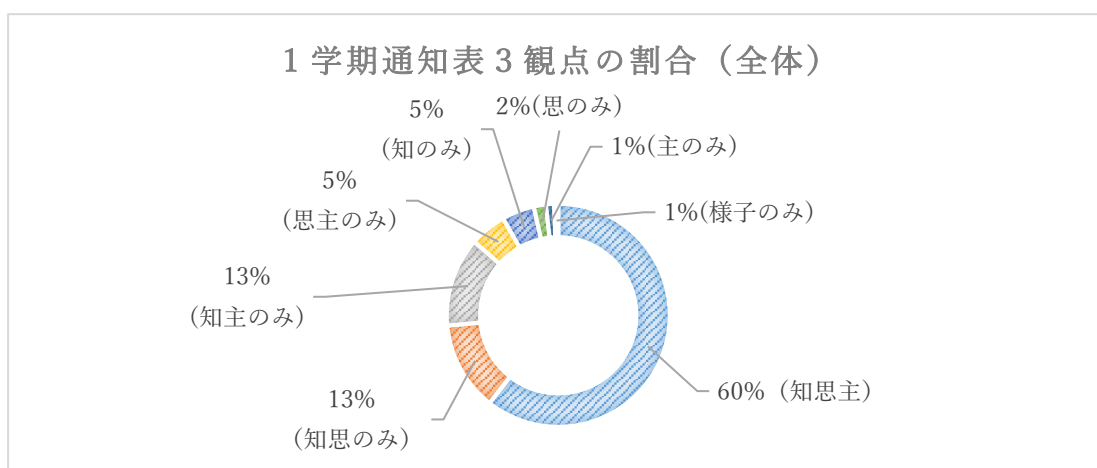


図1 1学期通知表 3観点の割合 (全体)

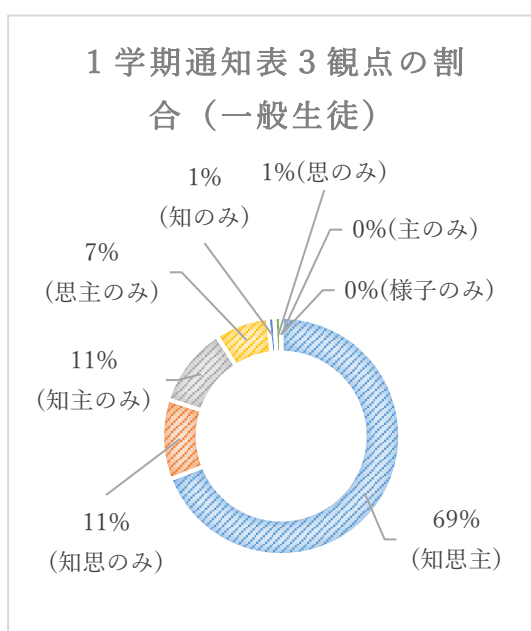


図2 3観点の割合 (一般生徒)

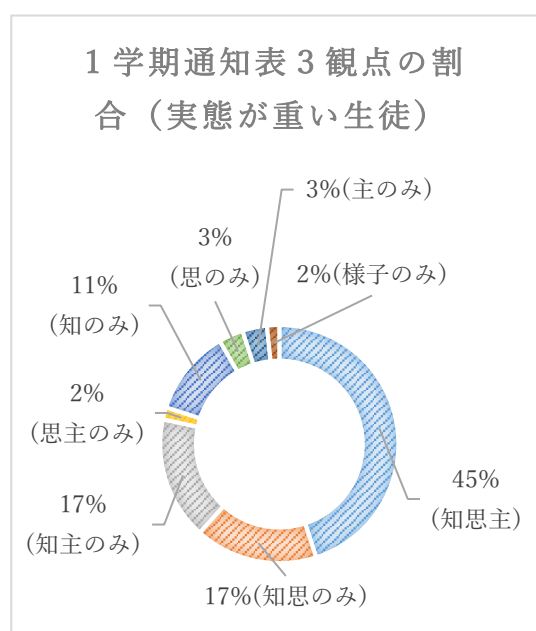


図3 3観点の割合 (実態が重い生徒)

・全体としては、高い順に「知・思・主」、「知・思のみ」、「知・主のみ」、「思・主のみ」となり、その割合は順に60%、13%、13%、5%であった。最も低いのは、「主のみ」、

「様子のみ」であり、いずれも1%であった。「知を含む」、「思を含む」、「主を含む」割合は、それぞれ91%、80%、79%であった。(図1)

- ・一般生徒のみの集計結果としては、全体の傾向と同様に、高い順に「知・思・主」、「知・思のみ」、「知・主のみ」、「思・主のみ」となり、順に69%、11%、11%、7%であった。最も低いのは、「主のみ」、「様子のみ」であり、いずれも0%であった。「知を含む」、「思を含む」、「主を含む」割合は、それぞれ92%、88%、87%であった。(図2)
- ・実態が重い生徒のみの集計結果としては、高い順に「知・思・主」、「知・思のみ」、「知・主のみ」、「知のみ」となり、順に45%、17%、17%、11%であった。最も低いのは、「思主のみ」、「様子のみ」であり、いずれも2%であった。「知を含む」、「思を含む」、「主を含む」割合は、それぞれ90%、67%、67%であった。(図3)

③ 分析の考察

- ・中学部の約半数は今年度赴任してきた職員であるにも関わらず、「様子のみ」の記述がほとんど見られなかった。このことから、新職員も観点別評価を意識して評価することができたと考えられる。
- ・「知を含む」、「思を含む」、「主を含む」割合は、それぞれ91%、80%、79%であった、という全体の傾向は、観点の相関性(「知識・技能」を身につけ、その力を「思考力・判断力・表現力」として活用(あるいはその逆も)する。そして、この「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を深めるために「主体的に学習に取り組む態度」が発揮される)を踏襲したものとなっている。このことから、中学部全体の傾向として、「知識・技能」→「思考力・判断力・表現力」→「主体的に学習に取り組む態度」の順に授業が展開されていると推測できる。
- ・図1～3の比較より、実態が重い生徒ほど、3観点を網羅して評価することが難しくなる傾向が読み取れる。
- ・実態の重い生徒のみの集計において、4番目に高い値が「知のみ」であった。これは全体や一般生徒のみの集計とは大きく異なる点である。このことから、実態の重い生徒において、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学習に取り組む態度」の評価がうまく出来ていないことが読み取れる。実態の重い生徒に対する観点別評価に関しては、少ない表出あるいは表出がないことを、教師がどのように捉え、評価していくか、学部全体で検討していくことが必要だと考えられる。

④ 通知表記述の統一

1学期の通知表記述の分析を踏まえ、2学期は目標の段階から3観点で記述することを学部で共通確認した。

(2) 宮特授業改善のポイントを意識した授業実践 【学習改善・授業改善】

★宮特の授業改善のポイント★

- ①子どもが、目標の意義や学習の計画を理解し、見通しを持っているか(めあてや学習計画の提示の工夫)
- ②子どもが考え、判断する場面があるか(教わる学習と考える学習のバランスや工夫)
- ③子どもが振り返り(評価)を通して、学びを意識化しているか(子どもに伝わる評価の工夫)

① 実施計画

期間	5～8月	9～10月	11～12月
学習グループ	全体	各学習グループ	
教科・領域等	全教科	自由	
研究実践の足跡	<ul style="list-style-type: none"> ・実践報告 ・報告の集計 ・実践事例の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案 ・個別の評価記録 ・実践研究の流れ ・成果と課題、感想 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案（略案） ・個別の評価記録 ・実践研究の流れ ・成果と課題、感想

② 授業実践の実際

授業実践例が特定の教科や職員に偏らないように、5～8月は中学部全体で全ての授業において、「宮特授業改善のポイント」を意識した実践を行った。8月に全職員からの実践報告を集計し、情報の共有を行った。実践事例報告では「毎時間、全体の目標を立てて提示し、作業に入る前にシートへ記入させる（自分で考えられる生徒には個別の目標も立てさせている」、「収穫に足る大きさかどうか判断させる。作物の大小や重さの組み合わせを考え、規定重量におさめられるように学習する。」、「毎時学んだ手話の振り返りや、ビデオ撮影した自分の姿をみてよかった点や、改善すべき点を確認する」などの意見がみられた。集約した情報を学部で共有し、2学期からの授業実践に活かすこととした。

表1 実践事例報告数の集計

	めあてや学習計画の提示の工夫	教わる学習と考える学習のバランスや工夫	子どもに伝わる評価の工夫
国語	3	2	1
数学	2	4	3
音楽	1	3	1
体育	1	2	1
美術	2	2	3
作業	3	7	4
学級	3	9	1
合計	15	29	14

※学級：日生、生単、自活、道徳

次に、2学期は各学習グループに分かれ授業研究を行うこととした。その際、観点別目標を立て、単元を通して評価していく学習指導案と個別の評価記録を作成し、授業研究に取り組んでいくこととした。小中高の3学部全体で行われる授業研究会での他学部の職員からの助言も反映させながら、授業改善に取り組んだ。

11～12月の授業研究は、9～10月の授業研究の課題とされた実効性のある指導案様式の検討をする目的で、略案で指導案作成を行うこととした。

以下、各学習グループの取り組みを、〈単元の概略〉〈授業研究の実際〉〈成果と課題〉〈学習指導案〉〈個別の評価記録〉〈振り返りシート〉の項立てで載せていく。学習指導案は授業に関する話し合い等で改善したものを載せている。個別の評価記録は代表生徒のみ。

<単元の概略>

本学級は、1～3年生の男子生徒6名の複式学級であり、教師2名で指導にあたっている。1学期に食育の指導で、「3大栄養素」の学習の際、興味・関心を持っていたこともあることから身近な食材である「沖縄そば」を単元設定した。

沖縄の伝統料理である沖縄そばについて知識を深め、作り方を知り【知・技】、具材選びや買い物に行く場所の決定などの学習において自分の意見を表現したり伝えたりすることができる【思・判・表】ようにする。また、調べ学習（新聞作成、そばマップ作成、具材選び）・栽培学習・調理学習に友達と協力して活動に取り組むことができる【主】ように環境設定や教材・教具の創意工夫を行いながら生徒が見通しを持ちながら学習できるように取り組む。

<授業研究の実際>

- ①「沖縄そばと宮古そばの違いを知る」授業の目標を穴うめにするすることで、生徒に考えさせるところから始め、徐々にヒントをだしながら行ったことで、思考を深めさせることができた。また、宮古そばと沖縄そばの違いを考える際に、スライドの写真だけではなく、実物も提示して観察することで生徒から様々な意見を引き出すことができた。
- ②沖縄そばの具材選びでは、iPadを用いて生徒自身が調べ、自分が沖縄そばに入りたい具材を選ぶことができ、より主体的な活動ができた。また、振り返りでは、個に応じたプリントを用いることで、少ない支援で振り返ることができた。その際、早く終えた生徒自身が友達に教える場面が見られた。
- ③生徒の興味・関心や実態により、当初の指導計画の全8時間を13時間に変更した。増やした、授業内容としては、「そばマップ作成」「そば新聞作成」などである。
- ④授業を進めるにあたり、生徒自身が見通しを持って取り組むことができ、家庭や他学部の教師に対して、自分なりの表現方法で「沖縄そばを作る」「買い物学習に行く」などを伝えていたことが後に保護者や教師からの報告でわかった。

⑤授業研究の成果と課題 成果→○ 課題→●

○生徒にとって、身近な食材を扱うことで興味・関心をもって学習に取り組むことができ、個々にとっても地図を読むことができたり、検索の仕方（ローマ字入力）ができたりと様々な才能を発見することができた。

○沖縄そばを作るまでの工程として、具材を検索し、自ら選び、購入するお店を検索する（Web チラシ）などの様々な活動を個々の生徒の実態に応じて行うことができ、生徒が意欲的に取り組むことができた。

●本来なら地域の人材活用として「沖縄そば講師」を招いての授業を行う予定であったが、宮古島には講師がいないとのことであったので、担当教師だけでそば作りを行った。もう少し、宮古島のそば屋へのアプローチが必要だと感じた。

「生活単元学習」学習指導案

日時：令和2年9月9日（水）

3校時（10:35～11:25）

場所：中学部1組

対象：中学部1、2、3年1組
（男子6人、計6人）

授業者：仲村秀(CT)、富木百合香(ST)

【育てたい資質・能力】

- ・実践的・体験的な学習活動や学習内容を通して、生活経験を広げ、自ら計画する力

1. 単元名「沖縄の伝統料理について知り、沖縄そばを調理しよう」

2. 単元設定の理由

(1) 生徒観

本時の対象は、中学部1～3年生の複式学級で、学習グループは男子6名の計6名で構成されている。そのうち、主な障害種は、知的障害で、ダウン症、心室中隔欠損症、自閉症スペクトラム障害、精神遅滞など個々の障害を併せ持っている。

生徒の実態は、友達同士や教師との会話ができるなど、やりとりを楽しむことができる、とても賑やかな学級である。また、友達のことを気にかけて手伝ったり、アドバイスしたりと生徒間で協力する姿がみられ、雰囲気がとても良い。

各生徒の実態や課題は様々であり、次の活動に取り組む時に時間がかかる、自分の思いを言葉で伝えることに苦手意識がある、初めて取り組む物事に対して抵抗を感じる、社会との関わりをもたないことなどが課題として挙げられる。また、「食」に関しての課題として、食事量の調整が難しい生徒や好きなものだけ食べ、嫌いな食材は食べなかったり、食べ物を粗末にしたりするなどの課題が挙げられる。その点を踏まえて、1学期には、食事の重要性として「3大栄養素」の学習を行い、食材にはそれぞれ働きがあることを学習している。

(2) 単元観

生活単元学習とは、領域・教科を合わせた指導形態であり、生活上の課題を解決するための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実践的・総合的に学習するものである。

本単元では、10月17日の沖縄そばの日に向けて、伝統料理である沖縄そばの調理学習を設定した。沖縄そばは、生徒たちにとって身近な食べ物であり、給食で出ると人気のメニューである。そのため、生徒が興味関心を持って主体的に活動できる素材であると考えた。

活動内容としては、自分たちで沖縄そばの具材を検索し、畑で作物を育て収穫し、買い物に行く場所を探し、買い物から調理するまでの過程を計画する。このような様々な活動に取り組む中で、力を合わせて一緒に活動することの楽しさや良さを感じながら、自らの力で活動し、生活の質を高め、経験を増やすことができるのではないかと考える。

(3) 指導観

本単元で実施する「沖縄そば作り」にむけて、初めに、スライドを用いて沖縄そばと宮古そ

ばの違いを分かりやすく説明を行い、沖縄そばの日の週に調理実習を行うことを伝える。そこから、沖縄そばについての興味関心を引き出し、自分たちで具材を iPad で検索して好きな具材（ソーキ、三枚肉 etc.）をそれぞれ選ぶ活動に取り組む。その際、自分で選ぶことが苦手な生徒もいることから、できるだけ視覚的な支援を用いながら、主体的に選択ができるように行う。

保護者から社会との関わりを持って欲しいとの願いがあることから、選んだ具材を買い物に行く活動も取り入れる。iPad を使って身近なお店を検索し、買いに行く場所を自分たちで決める。決めたお店のチラシやデジタルチラシの存在がある事も確認し、レシートの見方の学習や品物を購入する際の留意点なども取り入れ、より生活に結び付けられるようにする。

調理学習まで行うことで、自分たちで協力し、計画・実行して沖縄そばを作ったことの達成感を味わい、社会への興味をもつ第一歩につながることを期待する。

3. 単元目標

- (1) 沖縄そば作りに向けて計画・実行できる。
- (2) 生活経験を広げ、興味・関心を高めることができる。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 沖縄そばの作り方を知ることができる【知・技】
- (2) 計画する際に、自分の意見を表現したり伝えたりすることができる。【思・判・表】
- (3) 調べ学習・栽培学習・調理学習に協力して活動に取り組むことができる。【主】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	沖縄そばと宮古そばの違いについて知る。	○	○	○
	2	沖縄そばの具材について調べる。	○	○	○
二	1	具材のネギの栽培。			○
	2	そば新聞を作る。	○		○
	3				
	4				
	5	そばマップを作成する。	○	○	○
	6	買い物に行く場所や値段を調べる。	○	○	○
	7	買い物をする際の注意事項を学ぶ。			
	8	買い物学習を行う。	○	○	○
9					
三	1	沖縄そばを調理する。	○	○	○
	2				

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・沖縄そば作りに向けて検索の仕方などを学び、手順表を見ながら作ることができる。	・買い物学習や調理学習を計画する際に、自分の意見を伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。
B	・沖縄そばの具材を知り、教師の支援を受けながら作ることができる。	・自分の考えをジェスチャーや単語で伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。
C	・沖縄そば作りに向けて検索の仕方などを学び、手順表を見ながら作ることができる。	・買い物学習や調理学習を計画する際に、自分の意見を伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。
D	・沖縄そばの具材を知り、教師の支援を受けながら作ることができる。	・イラストや写真を見て、自分の考えを伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。
E	・沖縄そばの具材を知り、手順表を見ながら作ることができる。	・買い物学習や調理学習を計画する際に、自分の意見を伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。
F	・沖縄そばの具材を知り、教師の支援を受けながら作ることができる。	・自分の考えを文字盤を用いて伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。

7. 本時の学習（1/13時）

(1) 本時の目標

- ①沖縄そばと宮古そばの違いについて知る。【知・技】
- ②教師の質問に対して、自分の意見を述べるができる。【思・判・表】
- ③自分の好きな具材を決めることができる。【主】

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・沖縄そばと宮古そばの違いを知り、その違いを説明することができる。	・教師の質問に対して自分の意見を伝えることができる。	・調べた具材の中から、自分の好きな具材を選ぶことができる。
B	・沖縄そばと宮古そばの違いがわかる。	・教師の質問に対して、自分なりの表現方法で伝えることができる。	・具材の中から、自分の好きな具材を選ぶことができる。

C	・沖縄そばと宮古そばの違いを知り、その違いを説明することができる。	・教師の質問に対して自分の意見を伝えることができる。	・調べた具材の中から、自分の好きな具材を選ぶことができる。
D	・沖縄そばと宮古そばの違いがわかる。	・イラストや写真を見て、名称を答えることができる。	・具材の中から、自分の好きな具材を選ぶことができる。
E	・沖縄そばと宮古そばの違いを知り、その違いを説明することができる。	・教師の質問に対して自分の意見を伝えることができる。	・調べた具材の中から、自分の好きな具材を選ぶことができる。
F	・沖縄そばと宮古そばの違いがわかる。	・教師の質問に対して、自分の考えを、文字盤を用いて伝えることができる。	・具材の中から、自分の好きな具材を選ぶことができる。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 5分	○始めのあいさつ ○学習内容の確認と今日のめあての確認	【主】 【思・判・表】	・姿勢が崩れてるときは正しい姿勢で挨拶できるように促す。 ・興味・関心をもてるように説明し、スライドを用いて、本時のめあてを確認できるようにする。 ①○○○○と○○○○の違いを知ろう	
	○10月17日について知る ○宮古そばを確認する ○沖縄そばと宮古そばの違いを考える	【知・技】 【思・判・表】 【知・技】 【知・技】 【思・判・表】	・思考しやすいようにヒントを出し、意見を引き出す。 ・写真を提示して宮古そばを見せる。 ・両方の写真を提示し、違いが確認できるようにする。 ※沖縄そばと宮古そばの現物を見せて違いが確認できるようにする。 ②沖縄そばの具材を考える	
展開 35分	○沖縄そばの具材を調べる (iPad 使用)	【主】 【思・判・表】	・調理実習を行うことを伝え、具材を自分たちで考えるように促す。 ・iPad を使って具材を調べる。	

ま と め 10 分	○振り返りのプリント ○次時の確認と終わりのあいさつ	【知・技】 【思・判・表】	・実態に応じたプリントを作成し、振り返りができるようにする。	
------------------------	-----------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎沖縄そばと宮古そばの違いについて他者に説明できる。 ○沖縄そばと宮古そばの違いについて知ることができる。 △沖縄そばと宮古そばの違いを説明できない。	◎教師の問いに対して、自分で考えて意見を述べることができる。 ○教師の質問に対して、意見を述べることができる。 △教師の質問に答えることができない。	◎具材を友達と協力して検索し、選ぶことができる。 ○自分の好きな具材を決めることができる。 △具材を選択することができない。
B	◎沖縄そばと宮古そばの違いについて知ることができる。 ○沖縄そばと宮古そばの違いについて写真を見て分類することができる。 △沖縄そばと宮古そばの違いを理解することができない。	◎教師の質問に対して、自分なりの表現方法で伝えることができる。 ○イラストや写真を見て、名称を答えることができる。 △教師の質問に答えることができない。	◎自分の好きな具材を決めることができる。 ○教師の支援を受けながら具材を選択することができる。 △具材を選択することができない。
C	◎沖縄そばと宮古そばの違いについて他者に説明できる。 ○沖縄そばと宮古そばの違いについて知ることができる。 △沖縄そばと宮古そばの違いを説明できない。	◎教師の問いに対して、自分で考えて意見を述べることができる。 ○教師の質問に対して、意見を述べることができる。 △教師の質問に答えることができない。	◎具材を友達と協力して検索し、選ぶことができる。 ○自分の好きな具材を決めることができる。 △具材を選択することができない。

D	<p>◎沖縄そばと宮古そばの違いについて知ることができる。</p> <p>○沖縄そばと宮古そばの違いについて写真を見て分類することができる。</p> <p>△沖縄そばと宮古そばの違いを理解することができない。</p>	<p>◎イラストや写真を見て、名称を答えることができる。</p> <p>○教師からの質問に、教師の支援を受けながら答えることができる。</p> <p>△教師の質問に答えることができない。</p>	<p>◎自分の好きな具材を決めることができる。</p> <p>○教師の支援を受けながら具材を選択することができる。</p> <p>△具材を選択することができない。</p>
E	<p>◎沖縄そばと宮古そばの違いについて他者に説明できる。</p> <p>○沖縄そばと宮古そばの違いについて知ることができる。</p> <p>△沖縄そばと宮古そばの違いを説明できない。</p>	<p>◎教師の問いに対して、自分で考えて意見を述べることができる。</p> <p>○教師の質問に対して、意見を述べることができる。</p> <p>△教師の質問に答えることができない。</p>	<p>◎具材を友達と協力して検索し、選ぶことができる。</p> <p>○自分の好きな具材を決めることができる。</p> <p>△具材を選択することができない。</p>
F	<p>◎沖縄そばと宮古そばの違いについて他者に伝えることができる。</p> <p>○沖縄そばと宮古そばの違いについて知ることができる。</p> <p>△沖縄そばと宮古そばの違いを説明できない。</p>	<p>◎教師の質問に対して、自分の考えを文字盤を用いて伝えることができる。</p> <p>○イラストや写真を見て、名称を答えることができる。</p> <p>△教師の質問に答えることができない。</p>	<p>◎自分の好きな具材を決めることができる。</p> <p>○教師の支援を受けながら具材を選択することができる。</p> <p>△具材を選択することができない。</p>

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・沖縄そばの具材を知り、教師の支援を受けながら作ることができる。	・自分の考えをジェスチャーや単語で伝えることができる。	・様々な活動に協力して取り組むことができる。
④個別評価	・沖縄そばの具材をスライドで知り、教師の話聞き、手本を見ながら沖縄そばを作ることができた。	・沖縄そばの具材や調理学習などについて様々なジェスチャーや単語で自分の伝えたいことを教師や友達に伝えることができた。	・掲示物作成では、色塗りや地図調べなどに取り組み、友達と一緒に協力して掲示物を作成することができた。
④評価	◎	◎	○
⑤学習の成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄そばの具材を調べ、前に掲示することで写真を見ながらそばに入れる具材を選択することができた。【知・技】【主】 ・「こねる」「ねかす」「のばす」「切る」「ゆでる」の工程を少ない支援で行い、沖縄そばを作ることができた。【知・技】【思・判・表】【主】 ・新聞作りやそばマップ作成では、自分の作業を集中して取り組み、友達と一緒に協力して掲示物を作成することができた。また、調理学習では、準備、片付け、こねる作業などを協力して行うことができた。【主】 ・具材を選択するときや沖縄そばを作る日をジェスチャーで伝えることができた。また、「たべる」「うまっ」などの単語の他にもいろんな単語で沖縄そばについて他の教師や親に伝えることができた。【思・考・判】 <p>●課題（特になし）</p>		
⑥単元の成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって、身近な食材を扱うことで興味・関心をもって学習に取り組むことができ、個々にとっても地図を読むことができたり、検索の仕方（ローマ字入力）ができたりと様々な才能を発見することができた。 ・沖縄そばを作るまでの工程として、具材を検索し、自ら選び、購入するお店を検索する（Webチラシ）などの様々な活動を個々の生徒の実態に応じて行うことができ、生徒が意欲的に取り組むことができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来なら地域の人材活用として「沖縄そば講師」を招いての授業を行う予定であったが、宮古島には講師がいないとのことであったので、担当教師だけでそば作りを行った。 		

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	・具体物やスライドの写真を見て、沖縄そばと宮古そばの違いがわかる。	○	◎		・具体物やスライドを見て、どれが沖縄そばかを答えることは難しいが、マッチングでは正解することができた。
	2	・掲示した具材の写真から自分がそばに入れたい具材を選ぶことができる。			◎	・様々な具材の中から、自分が食べたことがある具材をジェスチャーで伝えることができた。また、沖縄そばに入れる具材に挙手をして自分で選ぶことができた。
二	1 2	・そば新聞作りでは、自分の役割を理解し、友達と協力して作成することができる。		◎		・文字なぞりや色塗りが終わると友達に渡したり、具材の写真にのり付けをしたりして協力して新聞作りをすることができた。
	3	・ネギの栽培のため、台車の操作に気をつけながら土を運び、教師の話を聞いてネギの球根を植えることができる。		○	◎	・台車を安全に操作し、プランターへの土入れ運搬では、先生の指示でやるべきことを理解し、友達の活動も手伝うなどの姿も見られた。植える際には、少し深く掘りすぎることもあったが、修正して植えることができた。
	4	・そばマップ作りでは、そば屋さんの位置をインターネットで確認し、正しい位置に名前を貼ることができる。	◎	◎		・インターネットで調べたそば屋の場所を、ホワイトボードに貼られている地図と見比べ、教師に確認しながら正しい位置に貼ることができた。
	5	・買い物学習に行く場所を選ぶことができ、買い物をする際の注意事項を理解することができる。	◎	○		・買い物に行く場所の選択では、自分の行きたい場所に挙手をして意見を出すことができた。また、買い物をする際の注意事項をスライドで確認し、牛乳パックの賞味期限が書かれて場所を意識して見ることもできた。
	6 7	・自分が買うべきものがわかり、簡単な金銭のやり取りを行うことができる。		○		・購入予定の写真を見ながら、商品を探し、レジでお金を出すことができた。領収書をもらう際には「お願いします」と声に出して伝えることができた。
三	8 9	・清潔や安全に気をつけ、調理学習に取り組むことができる ・友達と協力して「こねる」作業や準備・片付けを行うことができる。		◎	◎	・マスクやキャップ、手指の消毒などは、自分で意識して行うことができ、包丁を扱う際には、指や周りに気をつけながら切ることができた。 ・こねる作業では友達がこねる際に支え、順番を守ることもできた。

授業振り返りシート 中学部 1組

生単「沖縄の伝統料理について知り、沖縄そばを調理しよう」 第1時

① 子供が、 <u>学習の意義</u> や <u>学習の計画</u> を理解し、見通しを持ってしているか (めあてや学習計画の提示の工夫)			
	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	・本時の学習の意義を理解し、今後の学習の計画まで意識して活動に取り組む様子がみられた。	・めあてを空欄にすることで、空欄を考え、正解を導き出すことで学習の見通しを持ちながら取り組むことができていた。 ・調理学習を行うことを伝えると自分たちで具材を考えたり、買いに行くお店を考えたりと学習の計画を理解することができていた。	・継続して取り組む。
つまずいていた	・導入の「Tくんの誕生日」がインプットされ、所々生徒の答えの中に出てきた。	・先生がふざけたから。	・ふざけません m(_ _)m
② 子供が <u>考え</u> 、 <u>判断</u> する場面があるか (教わる学習と考える学習のバランスや工夫)			
	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	・パワーポイントや教師の発問に考え、ワークシートでも自分で考え、答えを導き出す様子が見られた。	・興味・関心を引くため&考える場面ができるようにスライドを工夫し、ワークシートも実態に応じて作成できたから。	・時間はかかるけどこのままの視点で作成する…(‘ω’)/
つまずいていた			
③ 子供が <u>振り返り</u> (評価) を通して <u>学び</u> を <u>意識化</u> しているか (子供に伝わる評価の工夫)			
	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	・ワークシートやまとめなどを使って意識化できていた!?	・繰り返し聞いたり、書くことで学んだことをたくさんアウトプットすることができた。	・次時でもたくさんアウトプットする。
つまずいていた	・3つの日付(14、16、17)がでてきたので少し情報がこんがらがっている。	・T君の日付はいらなかったかな…。	・削除します (‘◇’)ゞ

〈単元の概略〉

本学級は1～3年生までの複数学年で構成され、障害の特性や理解の程度、作業能力等の個人差が大きい。発語がなく自身の考えを表現することが難しい生徒や簡単な意思疎通は可能だが複雑な思考を表現することが難しい生徒も在籍しているが、ほとんどの生徒は自分の考えをまとめ、発表することができる学級である。一方で、思考を伴う課題に対しては苦手意識を持っている生徒が多い学級でもある。また、本学級の生徒は自分で考え、行動する、主体性の面に関しても課題がある。この主体性を育むために、自分自身で考え、自身の考えを表現し、行動する活動に取り組みさせたい。

本単元で取り扱う台風はどの生徒も経験したことのある身近なものである。その経験から「台風は風が強い」「停電する」等、ある程度の「知識」は持っている。その「知識」をもとに「思考」を巡らせ、言葉で「表現」させることで、「主体性」を育むことができる教材だと考える。しかし、これだけでは既存の「知識」を「表現」しただけで、この単元を通して「主体性」の向上が図られた訳ではない。そこで本単元では、台風について新たに獲得する「知識・技能」を活用して、自分ならどうするか「主体的」に「判断」し、「表現」することを目指し学習に取り組んでいく。具体的には、台風についての知識やその被害について学び、その対策方法について考え、発表することを通して、実際に行動できるようになることを目指した取り組みを行いたいと考えている。また、単元全体を通して、学びの結果だけではなく、そのプロセスにも着目させることで、生涯にわたって学び続ける意欲や態度の素地を養うことも目的の一つとしている。

〈授業研究の実際〉

- ① 「生徒の生活に根ざした題材」、「合わせた指導の各教科への意識や偏りを改善」、「生徒自身で考えることを大切にする」、「学び方を理解させる」、これらを考慮して授業計画を立てた。
- ② 毎授業ごとに振り返りシートを記入させることで、自分自身で考え、自己の振り返りができていた。その記述から生徒の思考が読み取れるので評価がしやすかった。一方で、「できたこと」に比べ「できなかったこと」の枠はうまく記述できていないことが多く、客観視することの困難さがあることを実感した。
- ③ 授業研究会では、「発表の可視化」や「体験的な活動の提案」など、即実行できそうなアドバイスを頂いた。生徒との話し合いの中から、単元当初予定していた「新聞作り」から「ニュース作り」へ予定を変更していたので、体験的な活動を取り入れた学習を行った。
- ④ 単元前半と後半での自身の考えを比較させることで、学びを振り返ることができ、自分で成長に気づくことができていた。

⑤ 〈授業研究の成果と課題〉 成果→○ 課題→●

- 全体計画や単元目標・本時の目標の提示を工夫したことで、生徒がスムーズに考える活動に取り組んでいた。
- 観点別評価を単元計画に反映させることで、単元の構成がはっきりとしてきて、評価だけではなく、授業づくりもしやすくなったように感じた。
- 個別の評価記録に関しては、授業対象の生徒が多い場合、全員に対して毎時間の細かい評価は難しいと感じた。しかし、学習指導案も含め、今回作成してみて、自分自身とても勉強になった。この取り組み自体が「知」⇒「思」⇒「主」となっており、授業実践力が向上した。

生活単元学習指導案

令和2年9月9日 4校時 場所：中学部2組教室

中学部 2組 男子4人・女子3人 計7人

指導者 CT：金城裕紀 ST：黒島昌樹、小濱愛里佳

【育てたい資質・能力】 「自分で考え、行動できる力」

-新しく情報を収集し、その情報を基に自分で考え、表現し、実際に行動に移すことができる力-

1. 単元名「自分ができる台風対策を考えよう」

2. 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学級は1～3年生までの複数学年で構成され、障害の特性や理解の程度、作業能力等の個人差が大きい。発語がなく自身の考えを表現することが難しい生徒や簡単な意思疎通は可能だが複雑な思考を表現することが難しい生徒も在籍しているが、ほとんどの生徒は自分の考えをまとめ、発表することができる学級である。また、宿題を自分から要求するなど学習意欲は高い反面、思考を伴う課題に対しては苦手意識を持っている生徒が多い学級でもある。そして、その自信の無さから発表や行動には消極的であり、必要以上に教師に確認をする生徒も見られる。本学級の目標「STK（素直・助け合い・考える）」にもあるように、本学級の生徒は自分で考え、行動する、主体性の面に関して課題がある。この主体性を育むために、自分自身で考え、自身の考えを表現し、行動する活動に取り組みさせたい。

(2) 単元観

本単元で取り扱う台風はどの生徒も経験したことのある身近なものである。その経験から「台風は風が強い」「停電する」等、ある程度の「知識」を持っている。その「知識」をもとに「思考」を巡らせ、言葉で「表現」させることで、「主体性」を育むことができる教材だと考える。しかし、これだけでは既存の「知識」を「表現」しただけで、この単元を通して「主体性」の向上が図られた訳ではない。そこで本単元では、台風について新たに獲得する「知識・技能」を活用して、自分ならどうするか「主体的」に「判断」し、「表現」することを目指し学習に取り組んでいく。具体的には、台風についての知識やその被害について学び、その対策方法について考え、発表することを通して、実際に行動できるようになることを目指した取り組みを行いたいと考えている。また、単元全体を通して、学びの結果だけではなく、そのプロセスにも着目させることで、生涯にわたって学び続ける意欲や態度の素地を養うことも目的の一つとしている。

【各教科目標との関連】

特別支援学校学習指導要領解説 中学部

教科	目標
国語	○聞くこと・話すこと 1段階 「ア：身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。イ：話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。オ：相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。」

社会	<p>○地域の安全 2段階 「ア：地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。イ：過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。」</p> <p>○産業と生活 2段階 「ア：水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。」</p> <p>○我が国の地理や歴史 1段階 「イ：都道府県内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。」</p>
数学	<p>○データの活用 1段階 「㊦：身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。」</p>
理科	<p>○地球・自然 2段階 「ア：水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。」</p> <p>○物質・エネルギー 1段階 「ア：風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。」</p>
職業・家庭	<p>○情報機器の活用 1段階 「ア：コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。イ：コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。」</p> <p>○消費生活・環境 1段階 「ア：生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。」</p>

(3) 指導観

「主体的な学び」の実現に向けて、単元の始めには台風について学ぶ意義を説明し、学習計画を提示することで見通しを持って学習に取り組めるようにする。また、毎時間、本時の目標だけではなく単元の全体目標も確認することで、最終的なゴールを常に意識させる。そして、毎時間振り返りシートを記入させることで、自己の学びを振り返り、成長できた点や反省点等を次回の学習に活かせるようにする。さらに、単元当初に考えた台風対策と、単元後半で考えた台風対策の違いを比較させ、単元を通して学びを振り返らせることで、自己の成長を実感させるとともに、学習意欲の向上や学び方の理解の定着を図りたい。

「対話的な学び」の実現に向けて、教師の一方的な説明に終始することの無いよう生徒との対話を重視して授業に取り組む。その際には、できるだけ生徒の発言を拾い、肯定的に受け止めることで発言しやすい環境作りに務める。また、グループ活動など生徒同士の会話が生まれる場面も設定することで、友達同士の対話から、情報を整理し、自身の考えを深めさせたい。特に、台風対策について模造紙にまとめる活動では、極力生徒同士で考え、まとめさせることで、協力して思考を深めていく過程の有用さに気づかせたい。

「深い学び」の実現に向けて、友達と協力してまとめた台風対策をもとに、単元の最後に台風新聞を作成させる。自分ができる台風対策に加え、どの内容を新聞に記載するか、どのようなレイアウトにするかなど、極力自分の思考・判断・表現で新聞を作らせる。また、完成した新聞を家に持って帰らせることで、実際に自分で考えたことが行動できるのか、その様子も見守りたい。ただし、台風対策は危険が伴うこともあるので、注意事項はあらかじめ提示しておく。

3. 単元目標

- (1) 自分ができる台風対策を考え、発表することができる。
- (2) 「情報を得る→考え、表現する→行動する」という学習の流れを理解することができる。
- (3) 台風の怖さを知り、台風が来た際の自身の行動について考えることができる。(生徒G)
- (4) 教師とコミュニケーションを取りながら、しっかり目を見て学習活動に参加することができる。(生徒C)

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。【知識・技能】
- (2) 今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。【思考・判断・表現】
- (3) 学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	四時間	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の調べ方を学び、天気を調べる。 ・台風について調べる。 ・台風被害について調べる。 	◎	○	○
二	三時間	<ul style="list-style-type: none"> ・台風対策について考える。 ・台風接近時の自分の行動について考え、判断する。 ・台風やその対策について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめる。 	○	◎	○

三	三時間	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙にまとめた内容と自分のできる台風対策を基に「台風ニュース（動画）」を作る。 ・単元当初の自分の考えと比較し、新しくわかったことを認識する。 ・単元全体の評価を基に、自己変容についての要因を認識する。 	○	○	◎
---	-----	---	---	---	---

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
B	天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
C	話し手や映像など、しっかり目で見て学習活動に取り組むことができる。	ジェスチャー等で、教師へ支援を求めることができる。自分なりの表現で台風のイラストを完成させることができる。	みんなと協力して、最後まで集中して活動に取り組むことができる。
D	天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、積極的に活動に取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
E	天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。周りの意見を参考にする前に、まずは自分で考えてみるができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。

F	天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
G	台風を含めた天気の違いについて理解し、台風の怖さを知ることができる。	台風が来た際の自身の行動について考えることができる。	みんなと協力して、最後まで集中して活動に取り組むことができる。

7. 本時の学習（一次の4時）

(1) 本時の目標

台風の被害について知ることができる【知識・技能】

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
B	台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
C	話し手や映像など、しっかり目で見て学習活動に取り組むことができる。	自分なりの表現で、教師へ支援を求めることができる。	教師の支援を受け入れ、力むことなく学習活動に取り組むことができる。
D	台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	積極的に発表に取り組むことができる。
E	台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。

F	台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
G	台風の怖さを知ることができる。	教師の支援のもと、イラストを選び、貼り付けることができる。	積極的になぞり書きやイラスト貼り等に取り組むことができる。最後まで集中して学習に取り組むことができる。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	1. はじめの挨拶 2. 前時までの振り返り 3. 動画視聴「台風の風を体験 1' 48」 4. 本時の目標、活動内容の確認	【知・技】 【思・判・表】 【知・技】 【知・技】	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ生徒の言葉を引き出して、前時の振り返りを行う。 ・「台風のと看何してる？」に対して、返ってくる生徒の発言を使い、風の話へ ・動画を見ていない場合は、STは生徒C,Gの支援を行う。 ・目標の確認（台風の被害について知ることができる。）。ワークシートへ記入させる。生徒C,GはSTの支援で記入。 	《理科》
展開 30分	5. 台風の被害ってどんなものがある？ 6. 動画視聴「台風によるさまざまな被害 1' 49」 7. 動画を振り返って、用語の確認 8. 動画視聴「台風のひ害 0' 52」 9. 停電、断水、欠航で困ることを、ワークシートに記入	【知・技】 【思・判・表】 【主】 【知・技】 【思・判・表】 【知・技】 【思・判・表】 【主】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート問題4に記入させる（※書けなくても良い）。生徒C,GはSTの支援のもと、イラストの貼り付け作業をさせる。 ・動画を見ていない場合は、STは生徒C,Gの支援を行う。 ・生徒達に質問しながらワークシート問題5の（ ）を埋めていく。生徒C,GはSTの支援のもと、なぞり書きを行う。 ・動画を見ていない場合は、STは生徒C,Gの支援を行う。 ・ワークシート問題6～8を記入させる。言葉がでなくても粘り強く考えさせる。生徒C,GはSTの支援のもと、イ 	《社会》 《社会》 《理科》 《社会》 《社会》 《社会》 《職業・家庭》

	10. 発表、振り返りシートの記入	【主】	ラストの貼り付け作業をさせる。 ・記入したことを発表させる。	《国語》
まとめ 10分	11. まとめ 12. 次回予告 13. 終わりの挨拶	【思・判・表】 【主】 【主】	・台風の被害について整理し、目標達成の確認を行う。 ・次の授業内容の確認を行う。	《社会》 《理科》

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。 △教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。
B	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。 △教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。
C	◎話し手や映像など、しっかり目で見えて学習活動に取り組むことができる。 ○教師の支援のもと、	◎自分なりの表現で、教師へ支援を求めることができる。 ○教師の動きを模倣して、支援を求めることができる。 △教師へ支援を求めることができ	◎教師の支援を受け入れ、力むことなく学習活動に取り組むことができる。 ○教師の支援のもと、一

	話し手や映像など、しっかり目で見えて学習活動に取り組むことができる。 △教師の支援のもと、できそうな活動に参加することができる。	ない。	緒に学習活動に取り組むことができる。 △集中して活動に取り組むことができない。
D	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎積極的に発表することができる。 ○教師に指名され発表することができる。 △教師に指名されても発表することができない。
E	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。 △教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。
F	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。 △教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。

G	<p>◎台風の怖さを知ることができる。</p> <p>○台風の映像を見ることができる。</p> <p>△ワークシートのなぞり書きをすることができる。</p>	<p>◎イラストを選び、貼り付けることができる。</p> <p>○教師の支援のもと、イラストを選び、貼り付けることができる。</p> <p>△教師の支援のもと、イラストを貼り付けることができる。</p>	<p>◎最後まで集中して活動に取り組むことができる。</p> <p>○教師の支援のもと、集中して活動に取り組むことができる。</p> <p>△集中して活動に取り組むことができない。</p>
---	--	---	--

9. 授業の評価のポイント

- (1) 3観点を踏まえた授業展開の工夫がされているか。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの工夫（めあてや学習計画の提示の工夫・教わる学習と考える学習のバランスの工夫・子どもに伝わる評価の工夫）がされているか。

1. 単元の個別目標と評価

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
④個別評価	新聞を読んで、宮古島や久米島、石垣島などの天気、気温、降水確率を調べることができた。台風が熱帯低気圧からできることや断水や船の欠航など、台風の被害について知ることができた。	「スマホの充電を台風が来る前にしておく」「窓ガラスにテープをはる」「懐中電灯を準備する」「先にお風呂に入る」などの、対策を考え、発表することができた。	うまく考えが出せない問題に対しても粘り強く取り組むことができた。「ニュースを作りたい」と積極的に発言し、意欲的にアナウンサーをすることができた。単元の始めと終わり頃の自分の考えを見比べ、成長に気づくことができた。
④評定	◎	◎	○
⑤学習の成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元当初、「台風が来たらどうする？」の問いに対し、「家ですごす。」のみ回答していたが、単元終盤では「まどにテープをはる」など、他8種類の対策を記述することができていた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気調べ方に関しては、日頃から調べている生徒との差が出ていた。知識・技能の定着を図るためには、くり返し行う場の設定が必要だと感じた。 ・ 振り返りシートに「できたこと」の記述は毎回あるが、「できなかったこと」の記述はなかなか書けていなかった。振り返りの書き方の指導を丁寧に進めていく必要があると感じた。 		
⑥単元の成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な題材ということもあり、単元最後まで集中して授業に取り組んでいた。 ・ 単元を終了して約1ヶ月後に学級で行っていた地震・津波避難訓練の事前学習中に「高潮」という発言が生徒からあり、単元で学んだことが身についている様子が見られた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年は10月以降台風が来ていないため、主体的に対策に取り組めるのか観察する機会が無かった。もっと早い時期に単元を設定した方が良かった。 ・ 今回は「考える」をメインのテーマとしたが、この学級の生徒達ならば「行動」まで求める内容の計画でも良かったと感じた。 		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	天気調べ方がわかる。	◎			新聞を読んで、宮古島や久米島、石垣島などの天気、気温、降水確率を調べることができた。最高気温と最低気温の違いを知ることができた。
	2					
	3	台風について、知ることができる。	◎			動画を振り返りながら、台風の発生時期や生まれる場所、移動の仕方についての問題の空欄を埋めることができた。台風の熱帯低気圧が強くなったものが台風であることがわかった。
	4	台風の被害について、知ることができる。	◎			動画を振り返りながら、台風のさまざまな被害についての問題の空欄を埋めることができた。停電で困ることは「扇風機やクーラーがつかない」、断水で困ることは「お風呂に入れない」など、自分で考え、発表することができた。
二	1	台風対策について考え、自分のワークシートにまとめることができる。		○		皆の発表を聞いて、学級で考える台風対策についてワークシートにまとめることができた。
	2	台風対策について考え、模造紙にまとめることができる。		◎		みんなと協力して掲示物作成に取り組むことができた。模造紙に数種類の「被害」と「対策」を貼る活動では、始め色のまとまりで貼ろうとしていたが、「色でまとめたの？これだと意味が分かりづらいね」の言葉かけを受けて、皆をリードしながら生徒だけで掲示物を完成させることができた。
	3					
三	1	台風ニュースを作ることができる。			◎	新聞ではなく「ニュースを作りたい」と積極的に発言することができた。アナウンサーやリポーターなど、動画撮影にも友達と協力しながら意欲的に取り組むことができた。
	2					
	3	単元の学習を振り返って、自己の成長を自覚することができる。			○	単元の始めと終わり頃の自分の考えを見比べ、成長に気づくことができた。

授業振り返りシート 2組 生単「自分ができる台風対策を考えよう」 第4時

① 子供が、 <u>学習の意義</u> や <u>学習の計画</u> を理解し、見通しを持てているか (めあてや学習計画の提示の工夫)			
	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	全体目標「自分ができる台風対策を考えよう」を答えることができた。(生徒B)	全体目標の確認も毎時間行っている。	今後も毎時間、本時の目標と単元目標(場合による)の確認を行う。
つまずいていた	前時の目標「台風について知ることができる」を答えることができていたが、全体目標「自分ができる台風対策を考えよう」は1人しか答えられなかった。	学習計画は単元の一番始めにしか説明していないので、その理解が不十分だった。	学習計画と合わせて、本時の目標の確認や全体目標の確認をして、学習計画のイメージをしっかりと持たせる。
② 子供が <u>考え、判断</u> する場面があるか (教わる学習と考える学習のバランスや工夫)			
	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	①「台風の被害」「停電」「断水」「欠航」について、自分なりに考えることができた。 ②「停電」や「断水」など言葉にあったイラストを自分で選んで貼ることができた。(生徒G) ③クレーン現象が見られ、自分から教師へ支援を求めることができた。(生徒C)	①②身近な題材であるので、自身の経験を振り返って考えやすかった。画像や動画を見せることでイメージしやすくなった。 ③生徒の動きを待つ支援をしたことで、自発的な活動が見られた。	①②抽象的なこともイメージして考えやすくするために、題材は生徒の身近なものを設定する。 ③今後も、主体的な動きを待つ支援を継続していく。
つまずいていた	「停電」や「断水」で困ることは経験上から考えることができていたが、「欠航」で困ることについてはうまく答えられない生徒が多かった。	自身の生活で受動的な経験が多いことから、あまりイメージが湧かなかった。	自分で考える習慣をつけさせるために、考える活動を多く取り入れる。
③ 子供が <u>振り返り(評価)</u> を通して <u>学びを意識化</u> しているか (子供に伝わる評価の工夫)			
	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	①振り返りの記入において、「断水」や「停電」などの馴染みのある言葉以外にも、「欠航」「土砂崩れ」などのワードも見られた。 ②教師の言葉を聞いて、「できた」「できなかった」を選んで貼ることができた。(生徒G)	①言葉だけの説明ではなく、動画や画像も活用して説明したことで印象に残っていた。 ②用意したイラストの表情や○×を見て、「できた」「できなかった」を選べた。	①今後も視覚情報を取り入れた授業作りに努めたい。 ②常に「できた」を選ぶ傾向にないか、できなかった時の反応も観察してみる。
つまずいていた	授業を通して、「できたこと」「できなかったこと」をうまく判断できていなかった。	自分を客観的に考えることの難しさがある。	振り返りの記述を継続して続けさせる。また、書き方の支援もあわせて行う。

(3) 生単（理科・社会）の取り組み・行事と授業との関連を考える取り組み・教科横断的な取り組み・年間指導計画の見直し 【教育課程改善】

① 生単（理科・社会）の取り組み

学部全体で取り組むために、5月に全職員を割り振った年間計画を作成した。内容や時数に関しては、年間指導計画を参考にしながら各担当が自由に決めることとした。

表2 生単（理科・社会）年間計画

	7月	9・10月	10月	10月	11月	2月
内容	七夕	台風	交通安全	交通安全	地図	未定
時数	2時間	10時間	2時間	2時間	2時間	未定
担当	2人	2人	2人	2人	2人	2人

② 行事と授業との関連を考える取り組み・教科横断的な取り組み

ア がんばりの木

生徒の頑張ったことを桜の花に記入し、その都度木に貼っていき、桜の木を満開にさせていく取り組み。生徒たちの自己肯定感を高めるだけでなく、教師が子どもの良い所を見つける視点を高めることもねらいとしている。3月には完成した満開の桜（子どもたちの頑張りで咲いた桜）で卒業生を見送る予定。卒業式に向けて桜を準備するのではなく、普段の各授業での頑張りで桜を準備する。卒業式の為の準備ではなく、あくまでも日頃の取り組みの延長として桜の木が完成する。



(図4)

図4 がんばりの木

イ 学習発表会（即売会）に向けて

作業班だけの取り組みにならないように、各教科で取り組む。

表3 各教科の授業計画

教科	国語	数学	音楽	美術	体育
内容	挨拶	お金の学習	未定	ポスター	未定

③ 年間指導計画の見直し

これまで、年間指導計画について年度内で評価する機会がなかった。自分が立てた計画に責任を持つために、3学期に今年度の各教科の年間指導計画の評価・改善を行い、次年度の年間指導計画（案）を作成する予定。

4 2学期までの研修を振り返って

2学期までの学部研修の取り組みについて、アンケート調査を行った。アンケートは集計を行い、学部内で情報を共有している。以下は、主な回答を記載している。

- (1) 観点別評価について、各自授業実践や通知表の記述、授業研究会を通して感じたこと
- 3観点を意識して授業を組み立てると「もっと〇〇さん主体的になれるかな？考える学習ができたかな？」と、毎時反省や改善点を見つけることができた！！
 - 授業内容を考える段階で観点別評価について意識しておかないと通知表記述の際に偏りがちになるため、気をつけなくてはいけないなど感じた。
 - 通知表の記述において、評価が「～できた」の技能やただの様子のみに偏っていたが、

3 観点を意識して評価するようになった。

○ 生徒を見る（評価する）ときの視点が変わった。知的障がいの子どもたちにおける知識とは、判断とは何かを考えるようになった。

● 重複クラスの子は何をもって知識・理解、思考・判断、主体的であると評価すればいいか、難しかった。

(2) 学習改善・授業改善について

① 各自授業実践、授業研究会を通して感じたこと

○ 見通しをもたせたり（何をするのか理解させる）、考える時間を作ることで受け身の授業から自ら考える主体的な授業へと変わっている感じがした。

○ 指導案を書くことで理解が深まり、授業改善につながっていると感じた。

● 振り返りの際など、本当に生徒が理解できたかどうか判断するのが難しいと感じた。生徒の実態に応じて何パターンもの振り返りシートの準備、内容の検討が必要だと感じた。

② 今後授業で取り組んでいく予定のもの（すでに取り組んでいることでも構いません）

ア めあてや学習計画の提示の工夫

・毎時間の作業日課（個人のもの）の提示と、その時間にどれだけ達成できたかをホワイトボード上などで見える化。

・「端的に、短く、わかりやすく」を心がけています。

・不必要な刺激を視野に入れないために、教室前方の掲示物など、最小限にしたい。

イ 教わる学習と考える学習のバランスや工夫

・間の取り方だったり、すぐに答えを出さない。教師側が待つということも意識していきたいです。生徒自身が考えられるように時間をつくる。問いかける。

・基本的に生徒には問いかけるスタンスなので生徒が考える学習につながっていると思います。あとは、どれだけ授業に引き込むかが大切。

ウ 子どもに伝わる評価の工夫

・言葉だけじゃなくて、目で見ても分かるように評価していけたらいいな。（作業）

・授業や活動の際、出来ていたことや頑張ったことなど、具体的に本人へ伝える。

・学習を振り返る（最初の授業に書いた文字→数時間練習した後の文字）。生徒自身の上達していることを実感できていた。

(3) 教育課程改善について

① 生単（理科・社会）への意見や感想

・正直、何をしたいかわからないです。すみません、勉強します。でも、交通安全（社会）、台風（理科）すごく勉強になりました。

・今までに行った理科・社会的な内容や「〇月はこんなことができるよ」などのアイデアを出しあう期間が新年度はじめにあるといいな一と感じました。

・全員対象じゃなくても。（実態に合わせて）

・家庭科もあってもよいか！！

・子どもたちの学習する権利のために、理科・社会・英語なども実生活に根ざした内容であれば取り組むべきだと思う。

② 課題（授業内容、年計、中学部教育計画、学校全体の教育計画などなど）

- ・授業を組み立てていく上で、子どもたちの伸ばしたい力を育成していくためには、実態把握が必要不可欠だが、重複クラス担当になると他のクラスの授業に入ることがないので、3観点を意識した授業改善をしたくても難しい部分があった。
- ・年計の見直しの機会がない（例年通り提出する形だけのものになる場合も）
- ・道徳の授業内容が今のままで良いのか。（道徳 CT を置いて、生単や自活等で定期的に取り組めることはないか）
- ・学部間の連携がもっとあるとよい。

5 学部研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- 全職員実践事例報告を行ったことで、学部全員で観点別評価に関する理解を深め、実践方法等について共有することができた。
- 生単（理科・社会）に学部全員が担当として取り組んだことで、生単（合わせた指導）の在り方について、各自当事者意識を持って考えることができた。
- 学部として、観点別評価を踏まえた通知表の記述方法を統一することができた。
- 観点別評価、生単（理科・社会）、行事と授業との関連を考える取り組み（がんばりの木など）を行ったことで、3学期に予定している年間指導計画の見直しに取り組みやすくなった。

(2) 課題

- 子どもに伝わる評価の工夫について、「伝える」ことの実践報告は多数あったが、実際に子どもたちに「伝わっているか（学びを意識化しているか）」の確認については議論が不十分であった。
- 学習指導案や個別の評価記録等については、実効性のある様式の検討が必要。
- 観点別評価の導入により、学習状況を多面的に捉えることができ、通知表の記述に反映させることができた。しかし、通知表の記述について、保護者への理解啓発や子どもへの伝え方についての議論はされておらず、今後の検討課題となっている。
- 障害の重い生徒への観点別評価については、教師の観察する力を高めることが今後の課題である。
- 教科横断的な取り組みに関しては、「内容」中心の取り組みになっている。今後は、「育てたい資質・能力」の育成に関しても教科横断的な取り組みをしていく必要がある。